

学生生活最後の学会発表を通じて

工学府物質工学専攻M2 藤田 幸



響を評価しました。

明学会発表に関して

私は2014年10月31日～11月1日に奈良県の新公会堂で開催されたICSST14 (10th International Conference on Separation Science and Technology)に参加しました。学会は8つのセッションから構成されており、約400件の研究発表が行われ、特に基調講演は能舞台上で行われました。私は固液分離装置の開発とその装置特性評価に関してポスター発表を行いました。本研究では、液中の微細な懸濁物質を凝集剤を用いて凝集させ、清澄水と固形分とに連続的に分離する操作を行う装置の構造として二重管構造に着目し、実験条件や装置構造が固液分離特性に及ぼす影



基調講演が行われた能舞台

今回が私にとって学生生活最後の学会発表ということもあり、ポスター作成等に注力しましたが、残念ながら海外の学生や先生方からの質問等がありませんでした。また興味のあるポスターの前に発表者がいない場合が多々あり、英語で質問をするという目標も達成することができませんでした。しかし、国内の先生方から様々な質問をいただき、また分離技術の中でも異なる分野の学生

の方と話すことができたことで、とても有意義な時間を過ごすことができました。発表の仕方やポスターの作成の仕方等反省点はたくさんありますが、この学会を機に修論審査に向けたモチベーションを高めることができました。この学会を通じて学会は国内国外に関わらず、自分から知らない分野のことを質問する積極性が必要であると痛感しました。知らないから躊躇するのではなく、これを機に知ろうという心構えが大切だと思います。

奈良での散策について

今回の学会が行われていた時期は、奈良国立博物館で行われていた「正倉院展」と重なったこともあり、多くの観光客の方が来られていました。私も学会後に正倉院展を観覧しました。じっくり鑑賞することはできませんでしたが、聖武天皇が実際に使っていた肘置きや東大寺の大仏開眼式典の際に履いた靴を見ることができ感動しました。

正倉院展の他に今回は非訪れてみたかった「奈良ホテル」を訪れ、ロビーを見学させていただきました。この奈良ホテルは、九州工大と深い縁のある建築家辰野金吾が設計した

ものです。国内外の著名人が滞在するホテルということもあり、入る際には身が引き締まりました。ロビーには狛犬に挟まれた鳥居付きのマントルピースがありましたが、全く違和感がなく、和洋折衷が見事に成り立っていました。機会があれば宿泊してみたいです。



奈良ホテル内にあったガラス窓

謝辞

日頃より研究に関してご指導くださっております鹿毛浩之教授、馬渡佳秀助教また国際会議参加にあたり経済面のご支援をしてくださいました。明専会に熱く御礼申し上げます。

(平成26年11月記)